

しどろもどろにおどろかす

あしたのさまのをかしかし

よろこび

幽 香

學校へ行くのが嬉しくて、別れを何とも思はぬのは子供等で、さすがに三年間可愛がつた我には涙なしては居られなかつたが、今は早十年の昔となつた、彼等は皆中學四年になつて居るとよ。同し年頃の子供見ては彼等の上思ひ出し、嘸大さくなつたらう、昔の面影今も残つて居やうか、あの子の性質は如何に、あれは望があつたが、など、忘れもせぬに機會がなくて、とう／＼十年相見なかつたのである。

としの夏であつた、嬉しい手紙が我旅先へ來た。

それは子供等同級の者十三人舊情を温ためたいから一度遇いたいといふのであつた。扱はまだ覺えて居つたか、誰の思ひつきでこんな可愛いことするかと、嬉しさ何ともいひ様がなかつた。

此間の土曜日はいよ／＼其日であつた、不忍池のはとり何ともいへぬ眺望のよい家で。道すがら子供の名前繰り返しては幼き顔思ひ出したづらの烈しかつた子供の事やら、困らせられた子供の事やら、いろ／＼記憶から呼び起して道を急いだ。玄關には無骨な靴のはこりだらけなのがズラツと列んで居る、扱は皆來て居るよ、と何ともいへぬ心持！坐敷へ通れば、此家の子供の母出て來て、子供が世に出て始めての三年間、如何に苦勞をかけたか、よくまあ來てくれた、此様な珍らしい嬉しい會はないとて喜ぶ。奥へ導かれて、さあ、こ

には皆既に集つて居る、制服着けた青年、もうりつばな青年がずらりと列んでゐた、さすがに我も驚かすには居られなかつた、皆の餘りに大きくなつたのと、その顔のわからぬのとで、幾度か一同の顔見くらべても、誰が誰だかさつぱりわからぬ、それから子供の名を一人思ひ出して、片端からこれかわれかと比へて見ると、さすがに昔の面影とこやりに殘つて、あなたが誰々であらう、といふ事が出来た、とうとうそれでも皆わかつて、一時間も話す内には、幼な顔すつかりとあらはれて、せいの高いのが今更の様に驚かれる様になつた。昔子供からもらつた寫眞やら、かいた畫やらがあつたので、もつていつた、話はそれから始つて、同じ組であつた友達の事やら、叱られた事やら、行啓の時の事やら、馬ごつこ、漚車ごつこ、煉瓦

すり、砂遊、などそれからそれへと移り、皆十年の昔にかへつて餘念もなかつた、大きくなつたら何になるかと皆にきけば、誰も陸軍大將か海軍大將であつたのに、今は農業に従事するとか、醫者になるとか、法律、商業、海軍、などゝさすがに昔の大將ばかりでなく、考が實着になつて居つた一同庭へ出て寫眞をとつた、それも子供の一人がとつたので、それからさまゝの遊嬉に無邪氣に遊んだ、何ともいへず末が頼母しく、成業の程も推しはかられて自分の手柄かの様に感じて一人で喜んだ。

何といふ珍らしい會であつたらうか、けふ世話になつても、あすは忘れてしまふ世の中にも、こんな美はしい事もあるので、實に近年の一大快事であつた。短かい日はいつの間にか向方岡にかくれ

て、高さ低き人家がたゞ黒く池の向ふに、其配合のよさ、得もいはれぬ中に、こんな喜にみちて歸つて行く人もあるのであつた。

左に掲ぐるものは、女子高等師範學校附屬幼稚園保母田中ふみ子氏の手に成れる保育誌なり斯道に従事する人の参考となる節々少からずと考へたるに因り同氏に乞うて、其中の幾部を抜抄して掲載することとせり

### 一の組幼児保育誌

(三十五年四月より三十六年三月まで)

ふ み 子

(全体の幼児數四十五人、中女一男一の二人は四月小學校に移るべかりし年齢の兒なれども發達不良のたの今一年幼稚園にとゞまることになりしもの。四十三人は四月に於て滿五年以上六年末滿のものにして、内男廿四人女十

九人なり。而して此中に於て女三、男九の十二人は三十四年四月に入園し、他は廿三年四月に入園せしものなり)

### 一 保育の方法及成績の大要

保育の精神は三の組時代より引きつゝきて、体育に尤も重きを置き、次に徳育、智育といふ様になしたり、体育に於ては男女兒を問はず活潑に全身を活動せしめ、其間に自然に身体をして發達鍛練せしめんことを期したり。故に鬼ごと、かけつこの如く全身を動かす遊びを奨励したり。而して日常幼児の守るべき作法及規律は成べく少數とし、其の少數の作法及規律は嚴に實行せしめ、其他害なき限り幼児の意に任せたり。要するに範圍を廣くして橋壁をめぐらし、其外には一歩も踏み出すを許さず、廣き園ひの中に於て幼児の意を自由に振舞ふことの出来る様になせり。従て大人の眼